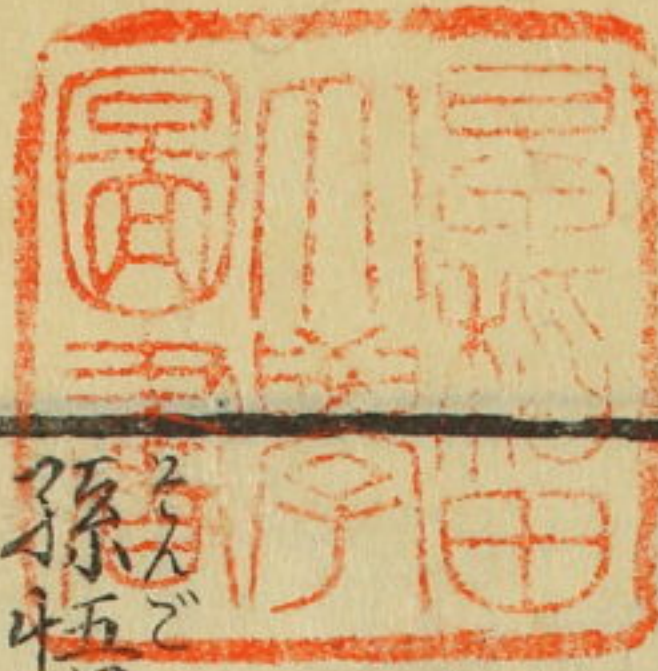


^13
3843
1



門へ13
3843
巻 1

繪本西遊記卷之二

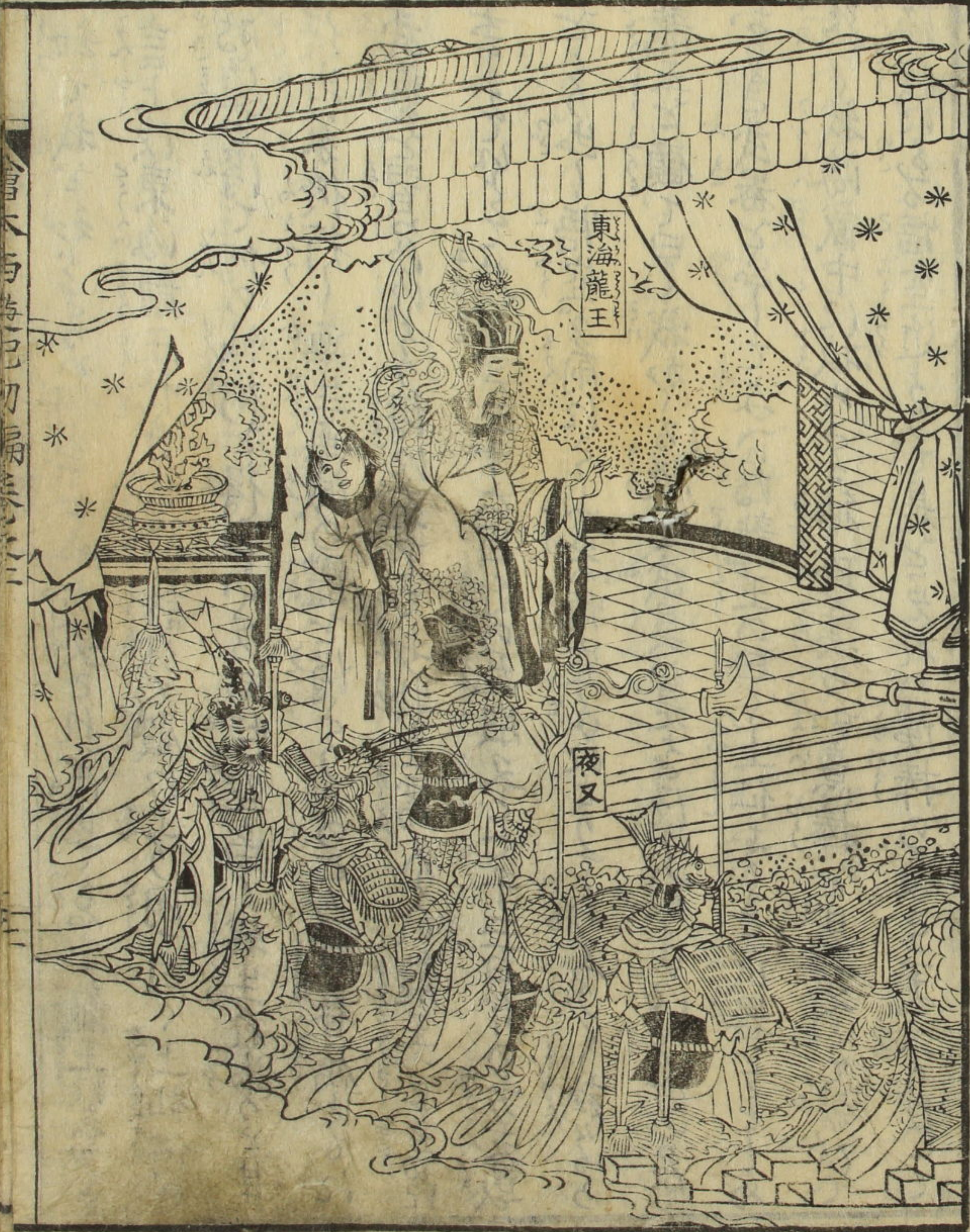


四海千山皆拱伏

九幽十類盡除名

孫悟空ハ混世魔王と退治一水簾洞にゆりて後属子の猴等
 とありの月々に武藝を習ひし傲来園に行てありこの弼戦兵
 器と奪ひし小猿どもにころちりて中と守るの使つを
 たり其身ハ龍宮珠に至り武器ととりんとかの水簾洞の橋の
 下に入つ雨水の法杖はつひ波濤と響く終に東海龍王の都に
 忽ち海庭を見せしむる役人巡海夜叉といふ者悟空を見て甚
 りぞり你是何所の者なれば安んまま王城を定規ふやと外に
 に悟空つてこく吾ハ翠果山の天生聖人孫悟空とつる者なり
 你

繪本西遊記二編卷之二



會不與海已初編卷之三



會不與海已初編卷之三

却て我を知らざるは何事ぞや夜叉これとて急ぎ龍王に告ぐと
 言上は東海龍王忙ぎ出迎へ誘ひて殿に上り同て曰く上仙何の
 時道を得て何の仙術を得むいさるや悟空曰く我生れあると其
 後出家修行し無生無滅の體を得たるごころ我眷屬どもに
 武藝を習ひ候に上り特に末子とてお物を需んとい龍王と見
 奉るていとそ其重さ二千六百斤の九股又と七千二百斤の方天戟
 ととり出さし悟空が前にさし置けり悟空よにいとておろしく試さる
 龍王と顧て曰く我かゝる武具は是をばりぬれよにたゞいふは
 おのき武器と申してよむ龍王の曰く上仙おのき武器と申さる
 後我海藏中に收りたる神珍杖の如意棒と目とて誘ひて
 海藏にゐる悟空近よりて是と見れば羨棒の長さ二丈余りにして

金色の光輝たり両端に金の箍を入れ如意金箍棒重一萬
 三千五百斤と一行の文字と携はけり悟空まづ両手にとりて
 け棒とより上恨らるけ棒あり長く余りたると其の言はまて
 終るざるに不思議なるを羨棒勿心ち縮まよりて悟空が心に
 かまひらるるまごころの棒と愛じりて悟空大きにあやし龍王に向
 て其故を問ふに龍王の曰くは神珍杖の棒は往昔の禹王水と
 治らむいし時海の深さを定めむいし定子より伸ははる上三十三
 天より下十八層地獄に及ぶと縮まる時は僅に一二分斗の
 绣花針とよりて耳の中に減入る真に奇妙の如意棒なり悟
 空は是をみて大きによろこびて甲やあるはこれと清くはせ
 藕絲歩雲の履一雙鎖子黄金の甲一副鳳翅は系金の冠一項

悟空
眠松
下到
真界



會入西遊記卷之三

四



會入西遊記卷之三

三

とどろき出てあゝと云れり悟空よりとて斜に及終に龍王に列
 もを告げ水簾洞へ入りて寝るにふじの幸のうらうら一日悟空
 酔に糸の松樹の下に睡眠する者二人出きて悟空
 と引く大なる城門の前に至る悟空頷とよく城門と見れり二つ
 鏡牌に幽冥界の三字が書く悟空問て曰く幽冥界とは閻王の
 居所にあはれや何の事ありて我とは所よむまじやかの兩人
 答ていふ你今娑婆の命救ふるに由り我等兩人句法をてま
 来れり悟空聞もあはれにたぬり忽ち耳の中より件の如意棒
 ととり出し其長一丈二尺の練棒とほ唯一丈二尺の兩人と折殺
 練棒とあり車にまわして城の中へ入るまじやあまの鬼ども答て我を
 森羅殿に逃上りてある事大なることなれば十代冥王これとて

多きとて追々悟空と見て其姓名と問へ悟空は時をきに呼らつて
 曰く你等我名と云ふは何ゆへんと迷ては所くよびよせた
 るや我は是華果山水簾洞天生聖人孫悟空なりえ末仙道を
 修行し天と壽とあるまじや三界を生きて將同と去れり然ると
 なるにちいさるまもば我命救の法をこころとてや冥王の曰く
 上仙とて怒りといふは天下の裡に名の同一きものなりとて
 是かき人清くしてせらる人悟空曰く我面を聞てあり你ホ
 が冥官の記し置 生死の簿子ありとて持来つて我に看
 せし冥王乃掌案判官と名して生死の簿子とて出及悟空
 みるにうらうかへり是を見らるる猴の類の中は孫悟空天生の
 石猴壽三百四十二歳善終とてとてかき記せり悟空等とて



森羅殿

真王

掌案判官

悟空
抹冥
薄延
猿命



真黒にこれをめり減し其余猴の名あるものごとく減し
 孫りりの如意棒とてうまは冥王と物をもつて幽冥界とせしむ
 おのゝ心夢のそらうらる今に到て猴の類ひの命長き陰司生
 先の簿子に名を除去する故らうとやさるほどの東海龍王六孫
 悟空無體に武器とてうりし事と憤り表と作て上天玉皇上
 帝に奏聞し其罪をいれむん事と告せむと幽冥より教主
 地藏王菩薩よりも悟空が生死の簿子とめり減らるは許さ
 らぬと玉帝文武の仙郷とていりけやく討手成下さんと議し
 むに太白星とてとて奏し多るは推今既に仙道と修む
 獸の類ひにあらん今勅使を下して彼と天上にりし上り官職
 授けては如に留りて重き君天令に順りて再々恩賞を行ひ

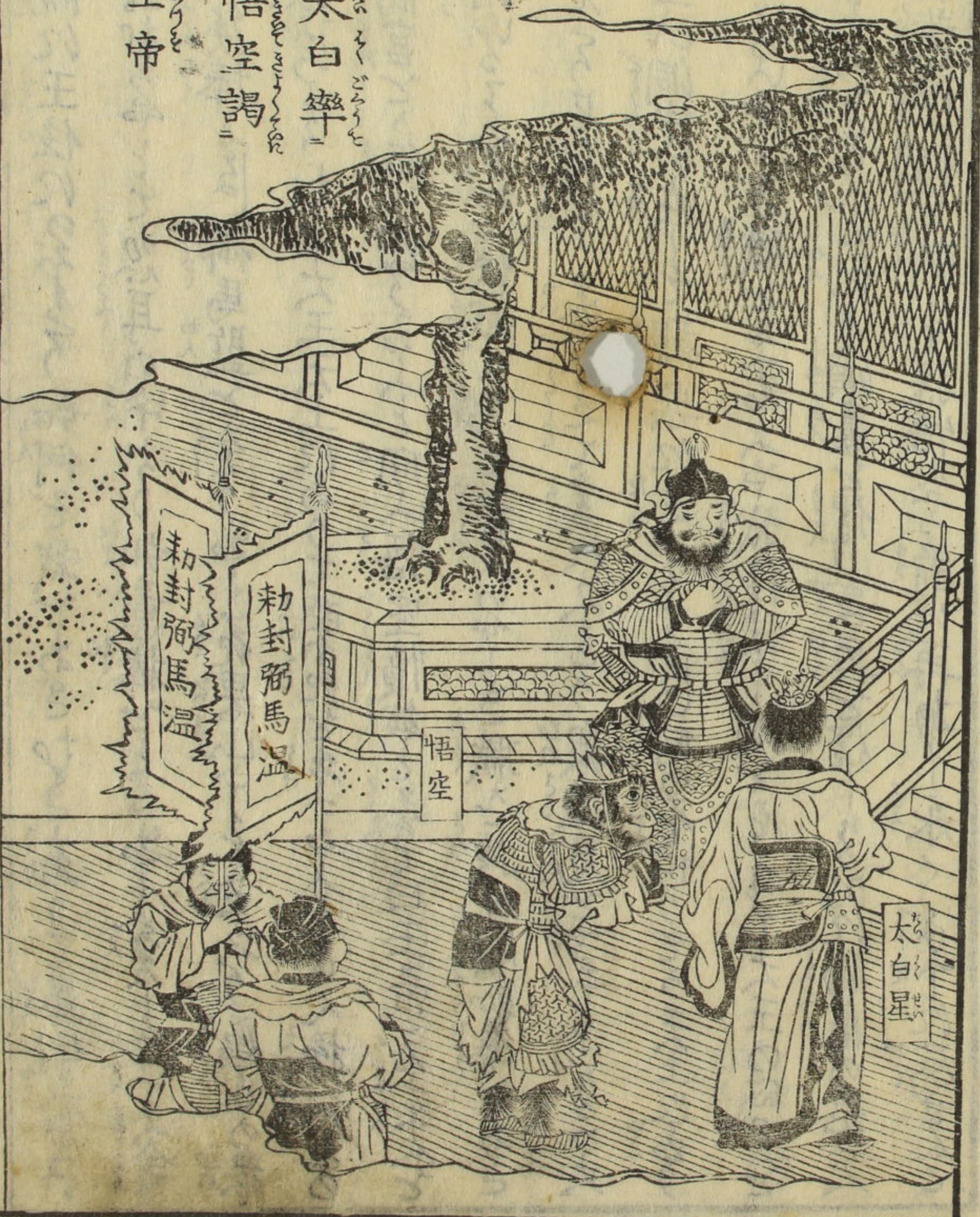
天令に遠ひまば其めとて刑罰をいひむ玉帝をいふこと
 むに即ち太白星と勅使とて華果山とて下されり

官封弼馬心何足

名註齊天意未寧

太白星の玉帝の命をいふ既ち水簾洞に至り孫悟空に對面し
 勅使のそのむき審に述べれば悟空一言の異議に及びて太白星と
 とて孫りりの天上にりし靈霄殿の下に多りて玉帝と孫と玉帝即
 悟空とめて弼馬温の職と授けむは弼馬温の職ハ馬と養ふ役
 にて甚といやき官なれども悟空え未だ官職の高下とて及よるこ
 ひて任に到りて己に月と経らるる同寮の官人ごめりて馬を
 やりの後官のよと始りて馬を咬んで大に怒り我花果山に在り

玉帝
悟空
太白



會
不
白
星
已
力
用
...

玉帝

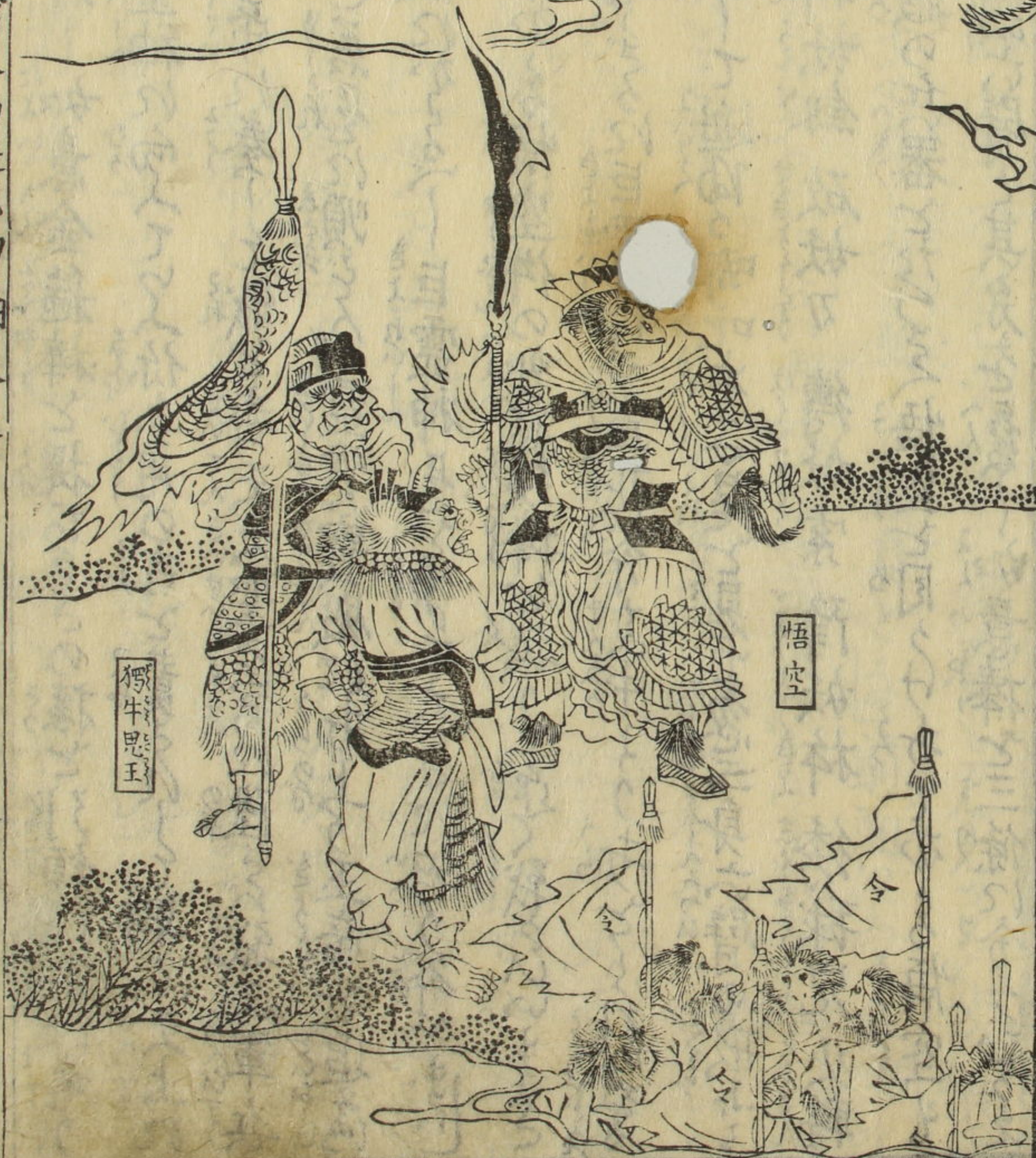


續
本
西
遊
記
第
一
回

既に王位にのびまう如何ぞ我とあざむきまうて馬成養ふ
 まむるやとて勿心耳の中より如意棒ととりおし多しと一太
 の漢棒とほ御馬監とまうし花果山へそまうし属子の衆
 猿はらまうむく大王天上にありて榮光とまうしならん抑何
 高官とす得てあうまうしと同一悟空憤然と答て曰王帝えま
 用ゆることを知らば我の馬と巻くしやき職を授け願辱とあ
 えらう是に依りて逐てまうし衆猿是とあてゆる大
 王は洞中に在りて觀樂にまうし何の居たりて天上にあり
 かるいやき職とまうしや我徒快く酒とまうて大王の胸を
 やとめまうしと飲く酒宴と信し良奥と信しるに獨角の鬼二
 赫黄袍一領と献し孫悟空が前に再おし永くま下に属せんと

とく悟空大まによう多しむくの鬼兩人と先陣の大おま
 定め赫黄袍と身に着し自り齊天大聖と称しつこの
 大旗に以四字と書記し洞門におし天兵とくも押来
 たらば只一息に討破らんと勢い猛にまうし居りて時天上
 小孫悟空職と捨て下界へ出奔せし事其後又おしと
 かしてとて文武の仙郷詮議の上を多く追討あるべきに一定
 托塔李天王と其子哪吒と降魔大元師とかし
 下界に向て進發ある李天王の先降巨靈神真先に宣死
 斧と提水簾洞小跑来り魔賊孫悟空いけくに在るや
 李天王が部下巨靈神將追討のころまうしはやくして
 勝負と決せよと大音にまうれば悟空其時鑽子黄金乃

悟空
歸簾
洞為
軍防



繪本西遊記之編卷三

天齋
大聖



繪本西遊記之編卷三

甲と着し如意金箍棒と提りしこの様と引鎖門外に走り
 出巨靈神に向つては「你を用ひの言と費さば早く天上に
 歸り玉帝に奏し我と齊天大聖の官に陞さば我軍兵
 動さば是れは順じんとん」靈霄寶殿にお上り玉帝と追は
 我其位にかゝるべし巨靈神をさめて大きに怒り斧をまじ
 て斬りかゝる悟空件の如意珠棒と振りて近く我をいし
 三合ちりし巨靈神が宣花斧を中よりおとされ心驚
 奔陣うて逃歸る哪叱を子是と見て忽ち三身六臂の形ふ
 多し斬妖劍 破妖刀 縛妖索 降妖杵 绣球兒 火輪
 兒の六般の兵器とたづみ悟空と目つけおてかゝる悟空も
 ちりし三頭六臂と其力を盡し如意棒を三條に分けむる

進んで脚す本す時むらういさご勝負もけんえざる如に悟空
 一 根の毛と抜て忽ち多し我身とはは前面にありて哪叱
 と戦ひ正方の悟空の哪叱を子つ後にまわり如意棒と上て
 尤の肩とをのしとすはさしも勇猛の哪叱を子この叶へたと
 やおとひらん是し奔陣へ逃入り大元師李天王を足
 て大きに擣き凜かくのとき神通あり急に征せんとおと
 ふぶらうべし先天上に歸り降儀の上加勢とらして再是と
 討つことて遂にを子と共に軍勢とやうら天上に歸りありと
 奏聞をれば玉帝とおはせし誰う李天王を助ては
 魔賊を捉へしやとつりるるに太白星とて出て奏して曰く
 只今加勢とつりし急に攻め給ふもたやとく勝利とほと



巨靈神

玉帝封
元帥降
簾洞



悟空

そま本たうし先凍が望にやうせ齊天大聖の官とあふはふに
やうしよせ養ひ置まふ所の天地の間永く静謐にひたり玉帝
は議に従ひひし重て太白星と勅使として下界に向き送じ
あふ太白星則水簾洞にあり悟空に對面し我玉帝に奏し
足下とひき齊天大聖の官と請ふたりすく天より上りては官
と孫文くはるとやられは悟空是とめて甚ごうはごび再ごび
太白星にまごが天より上りて

亂蟠桃大聖偷丹

及天宮諸神捉怪

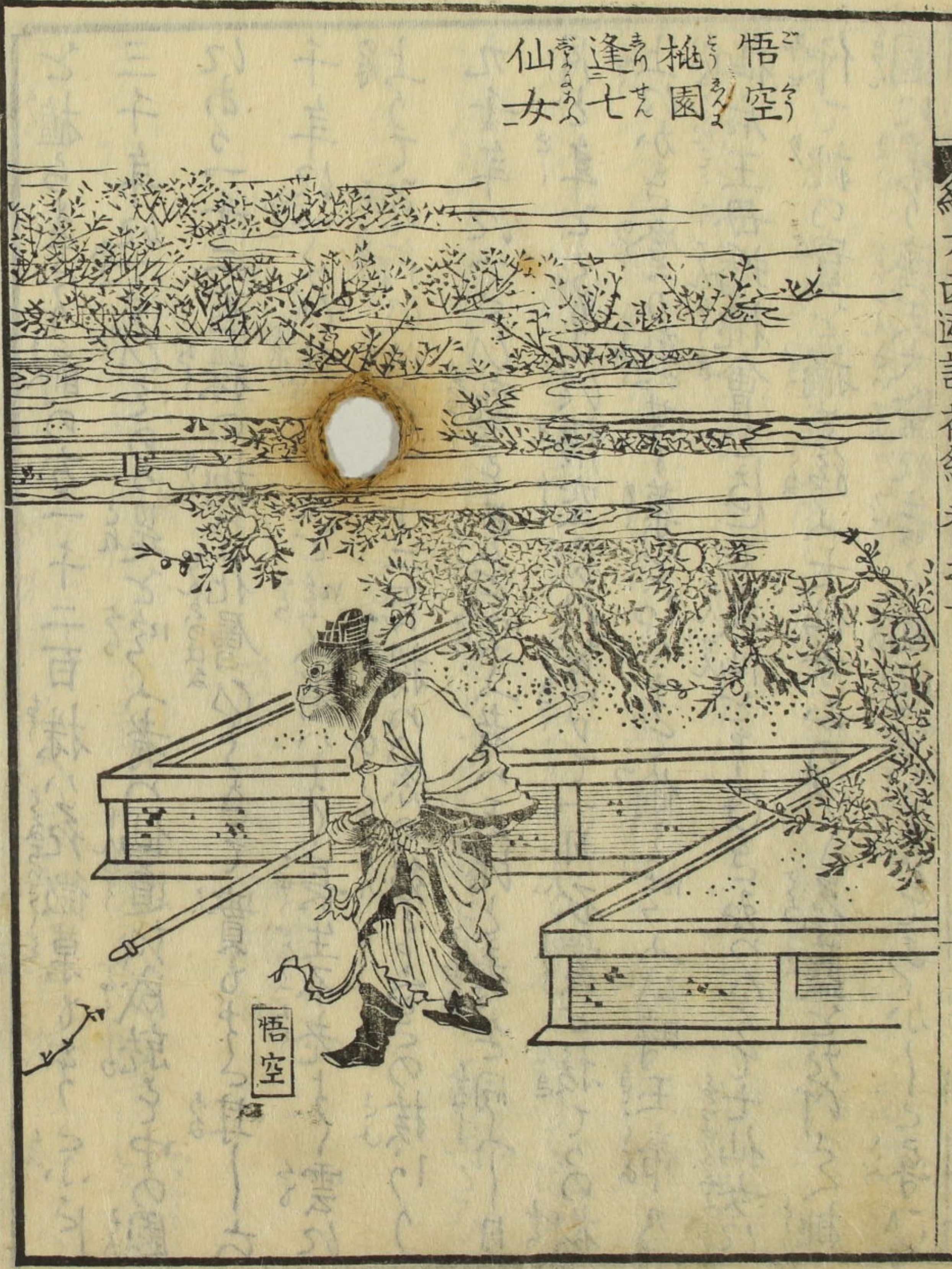
さる後玉帝君は孫悟空と封じと齊天大聖と蟠桃
園と權官とごび蟠桃園とありハ三千六百株の桃の木

と植らまごり前の方一千二百株ハ花微菓もさうごふに
三千年にひとびこの是と吃ふ者ハ仙道成就と中の園
にあり一千二百株の桃ハ花層ひらきて實もさく其ハ
千年にひとび熱是と吃ふ者ハ長生不老と雲に
上りて飛行以後の一千二百株ハ紫の級もさくの接りり
九千年にひとび熟果と果と吃ふ者ハ天地と壽を同一日
月と年ともふは悟空これとゆひて一日衣裳と抜てうの樹
上にかき登り熟せし菓をいくまて偷し吃ふは時玉帝乃
御后王母蟠桃會をほして天仙とすのきさむらんそ七仙女に
作て桃の實と摘せ給ふ七仙女かのく花籃とたけさ桃
園にあり齊天大聖に告ぐ園に入らばとてあかしく尋ひ



西遊記卷之三

悟
空
桃
園
七
女
逢
仙



悟空

西遊記卷之三

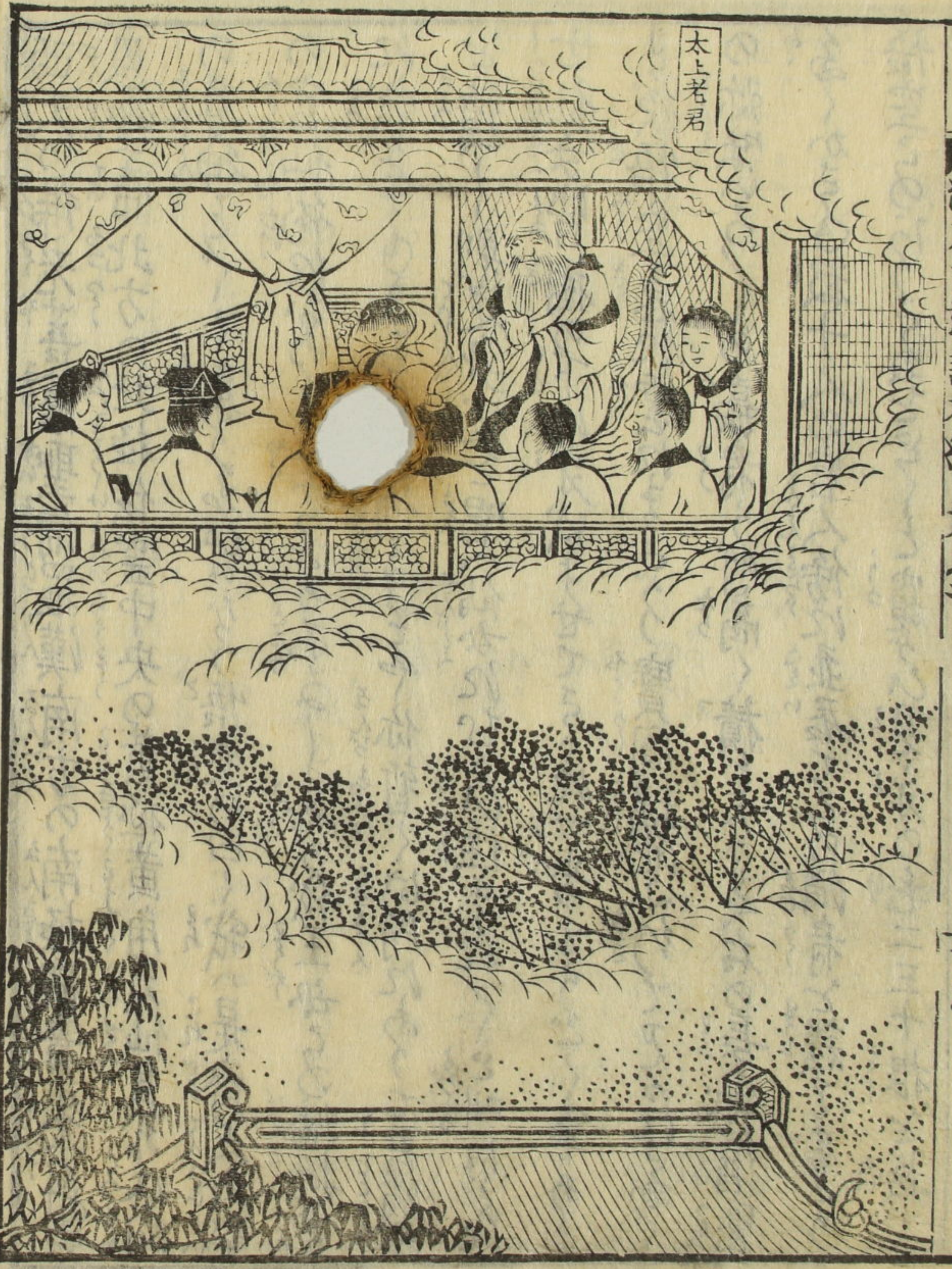
々れども悟空ハさらさらよんくは只冠裳束のと樹下に脱捨うり仙
 女ともせんくま樹の下にまより多くの挑と摘うりうにけし時
 悟也其長二尺斗の小猿と愛ど挑の實に喰飽て南の枝の
 木の多分隠さう眠るるりしり物音に目さち俄に奉相と現し
 耳の内より例の金箍棒と制手出ー大音はく你等何者まね
 挑と偷むや我悉討殺とどーと罵るれば仙女等大きにお
 どりき地に跪て中へ大聖怒り成息たす只今王母蟠桃
 會をたうあんとそ今夜は命じて挑の實を摘せ給ふべし大
 聖とさうめて若やさんとあひひーかども大聖をさうくあつた
 刻限の迷ちうきらんと押て園に入付ひぬ希く討と免しと
 悟空が曰く王母命をたうて誰人さうゆひきまへそ仙女の曰

西天の佛老菩薩聖僧羅漢南方の南極觀音東方崇
 恩聖帝北方の北極佐靈中央の黃極黃角大仙其外八洞
 の尊神とくく集るるひひなる悟空の曰く我は是齊天大聖
 の官仙術にああうまらざらふまー我ら王母の蟠桃會
 に我をさうひきまぬ何れぞや你暫くは所にあうて吾消息
 と待どー則定身咒を唱へ仙女にむひ住まれくと叫はると
 七仙女皆樹の下に身びよせてさうに一歩もさうとく事あ
 う悟也急に雲にまらうり寶閣瑤池ふりて刀をにさめく
 の弥味いろくの嘉肴うが高く積となら右の長廊に酒甕
 多くかさう殺十人の官人傍に並居てこの酒肴と護る居ら
 悟空このらうさるととくと穴覗ぐひ見方の毛二三十根を抜て

悟空矢路
到兜卒天



太上老君



繪本百選己卯編卷之二

繪本百選己卯編卷之二

十八

に中に入き嚼碎きて噴吐に忽ち多くの瞌睡虫と愛し守護
 の官人に向ふてとびかかれ不思議なる我一人も跡は外倒
 もてねむり入るに前後と都のめたる悟空則走りよる
 かの酒肴と引ちし意にすませて飲噉醉にふじて走り出齊
 天府といそぎしぐいじて道と踏たぐるん兜率天と至る
 けふのち上老君の住む所なるが折節老君法と説ふに
 仙童等聴聞に出人も門と守るめのみ悟空おとすと
 穴覗ひより仙家の宝も九轉の金丹と葫蘆の中に納五
 やうぞ貯る悟空は金丹と傾けとぐく喰ひ盡し今我身の
 罪科重なる上玉帝よりさうさふまどとんと恩惟し忽ち
 身の法を授けし西天門より走り出く一糸も華果山へとゆ

るはめ天上より玉帝悟空が罪と犯しとると殊し玉
 とて十万の天兵と發し下界に下しむ其先陣の大
 お九曜星真先に水蘆洞におしよせ孫悟空いづくにある早
 未つと我と戦ふはとと大音に鳴れば孫悟空も如意
 杖棒とまゝ向にさし門外に躍り出九曜星と二十余合
 戦ひし九曜星終よかまづ本陣へ引入り是と云く天
 軍の四大天王二十八宿隊と別ち備をかくる悟空をりひ
 押され悟空もまじ味方と下知し独角鬼王七十二洞の妖
 王とはじめ教萬の君猴と率て陣と對し相つとにかり喚き
 叫んで戦ひらるる鬼王妓王等おちけて死なば天兵に生どられ
 衆猴もまんぐに成て水蘆洞へ逃る悟空は是とてとせ

四大天神
與悟空戰



哪叱

托塔

西遊記卷之...

十八



悟空

西遊記卷之...

十九

四大天神托塔哪吒と相争りて大死と爲りて我々の遠間と
見て一把の毛とぬき百千の悟空と争ひて杖棒と争ひぬ
群がりかつくおまればもろくの天神さうのひに交ぬ
て引退く悟空もやうと強らふと追ぎ毛を集て夕に收り明日
の軍に大神通とほつて天狗と生捕りて其目水窟洞にぞ
かつりたる

観音赴

小聖施威降大聖

以時南海の観世音菩薩其弟子惠岸行者と引はれ蟠排會
に赴りて悟空會と亂し罪と犯しと只今合戦のさ中なるに
聞ひ惠岸とをきて軍の動靜と見せしめも惠岸則は

推乃之率果山の来り自ら轅門よき悟空と見り其時悟空
も衆猿の中より如意棒と打ちたりと出惠岸と目つけ只一打と
討てかゝる惠岸元来勇猛不双のまどれかれ月しく袂混さ
まどろく時中
一が惠岸終に敵とら本あこはれこれ
本陣さうて引退
上帝の令甥顯聖真君灌江にありける
が加勢のともとて本部の神兵と引領し鷹ととく大と牽せ果
山の来りも四大天王と天王のさき出途て対面し軍の次牙諺
らつに述べもくれ神君多くは妖魔つるも神通と得たりとも
我がさげ擒ととどく四大天王の我我うい搦るとも他方とさみて
逃る敵と打ちとどく托塔天王の空中に在り喚妖鏡とりて渠
が隠るるを照しとどく分ととどく定りたれば真君とつら

両將現
神變大
合戦



悟空



顯正

神兵を引く水簾洞におしよせ罽の声を上より悟空列の
 杖棒をおろし一言の回答も及ばず真一文字に討てかたり
 真君と相むく我う事二時より了る務員も見えざる如く
 真君大神通の天おかれべしとび身と揺ととええし其長
 高き事萬丈余り緑の面もまひの髪上下の牙長く生え
 三尖利刃鋒と速く一おにおんと及悟空も神通とつひ
 真君とおはしと親と愛ど杖棒とやうく我う事
 一時余りめし直より教の鷹を放ち去を追ひてむ
 も猿を追るに猴も大きき怒り懼も四方たると遊愛る
 悟空を見てん賜るき急に法象と收り本相とあらじ水簾
 洞へ入らんと及四大天王も四方をかここれい是にさへ



他は真君を見
 とせ我も先と嚙傷るべしよの方二つの體あるは眼を
 一おにおし償いべしと拳と上よりたんと悟空は大き
 驚き眼とほぶされんかまの身と急い身をのりて空
 中に飛より跡もく事たり 西遊記神編卷之三終

